老朽原発うごかすな！ニュース

第５６号

発行・老朽原発うごかすな！実行委員会

［連絡先］
090-1965-7102

美浜原発３号機を仮処分で必ず止める！

美浜原発を止めろ！と裁判所へ

１０月４日、美浜原発３号機運転差し止め仮処分の第１回審尋がありました。午後１時に裁判所前の公園で前段集会がありました。河合弁護士が「（名古屋の）本裁判だけやっていては美浜が動いてしまう。１審で勝ってもすぐには止まらない。仮処分で止めることが重要だ」と申し立ての意義を語りました。名古屋で本訴を闘っておられる北村栄弁護士も申し立てまでの経過を話され、全国の原発を止めたい弁護士、市民の力でこの仮処分申し立てが闘われているんだと理解しました。

原告の一人、石地さんが、美浜町でおこなったアンケートについて、美浜３号機に不安を感じますかという質問には７０％の人が不安を感じると、避難については自由意見で、知らされていない、この計画では避難できないと答えた人が多かったと報告しました。そして、美浜原発には活断層が７カ所もあること、福井の原発の中で一番大きな基準地震動９９３ガルが美浜であることを、この仮処分申し立を通じて美浜町民に知ってもらいたいと訴えました。

審尋が終わって、近くの堂島ビルで記者会見と報告集会が持たれました。

申し立てたのは６月２１日ですが、関電が答弁書を出し渋ったため、３カ月以上もたってからの審尋になりました。さらに９月１７日と１０月１８日の二回に分けて答弁書を出してくるので、１０月２５日の特重施設設置期限までに止めたいという原告側の希望はかなわないことになりました。しかし、特重施設完成までの来年秋までに運転禁止の仮処分決定を出してもらえばいいから、時間的余裕ができた分、きっちり関電に反論したいという弁護団の心強い報告でした。

その第１次答弁書ですが、なんと５００ページもあり、証拠に至っては大きな段ボール箱２箱もあるのだそうです（嫌がらせか関電、と心でツッコミ）。そして原告の設定した争点（地震関係５、避難計画１）についての認否は行わず、いかに安全であるか、自分たちの言いたいことを主張しているだけ。これには裁判長も認否を行うよう指導しました。何を認めて何を認めないのか、はっきりさせないと争点がぼやけて原発討論会みたいになってしまうということでした。

ところで次回期日ですが、現在の裁判長がよそへ移るので１１月はなくなって、次回審尋は１２月１日午後３時になりました。異動は普通、春なんですけどね。なんで今頃？と気になりました。

（長澤民衣）

大阪・御堂筋で「ひとりデモ」

御堂筋でひとりデモ

１０月４日、仮処分報告会を終えた１３人が、淀屋橋から本町までを往復する「ひとりデモ」に。道行く人々から、好意的な反応が。

「老朽美浜３号機運転禁止仮処分申立」学習会

１０月９日滋賀で　講師に井戸謙一弁護士

素早い対応！　仮処分申し立て

危険極まりない老朽原発美浜３号機の再稼働を関電は６月２３日に強行した。福井、滋賀、京都の９人の申立人と

井戸謙一、河合弘之両氏を共同代表とする９人の弁護団は６月２１日、「老朽美浜３号機運転禁止仮処分」を大阪地裁に申し立てた。素早い対応に感謝である。

１０６ページに及ぶ申立書の中身を市民もキチンと理解しておく必要があると、申立人が急きょ学習会（滋賀県教育会館・オンラインも）を提起され参加した。井戸弁護士が当日準備された学習資料は緻密なデータを駆使しながらも、とてもわかり易く話していただけた。初めて知る言葉（バスタブ曲線など）や新しい視点や発想も得て中身の濃い学習ができた。なんだか少し賢くなった気がする。

井戸弁護士の話を聞く皆さん

勝つためには、何を争点にするか

勝てるか、勝てないかが弁護士としての視点。仮処分申し立ては１０月２５日までの決定をめざしており、新しい議論には入らない。普遍性があるものは全国に波及するハードルが高い。そのため裁判所が判断しやすい点、つまり美浜３号機の特徴【美浜原発は活断層の巣の中にある】を軸に、裁判官にわかってもらいやすい論点にまとめ争点を絞り込んだ。なるほど、勝つための戦略！勉強になるぅ。

原発を臨終させるために、先ずは美浜３号機から

新設が困難な状況で、老朽原発を動かすことができるかどうかが分水嶺。これから次々と４０年を迎える原発。モグラたたきのように一つ一つ潰していく必要があると熱く訴える井戸弁護士の存在は心強い。みんなでがんばろう。

（脱原発市民ウォークｉｎ滋賀呼びかけ人・ふぇみん婦人民主クラブ共同代表　岡田啓子）

現地に行くということ・・・

１０月１１日に行われた、伊方原発再稼働阻止現地行動に参加した。伊方が遠いため、現地行動に行こうと思うと前後にも日を要することや経済的な問題で、行くか迷っていたが、色々な方々が便宜を図ってくださり、行くことができた。

私は福井の原発以外の原発現地に行くのは初めてだった。やはり高浜原発とは雰囲気が違った。伊方原発はゲートよりもだいぶ下に位置し、上から見下ろすことができる。「おお、こわ」どこの原発を見ても、この第一の感想は同じ。「目の前のアレが重大事故を起こしたら・・・」と考えるとぞっとする。行動では、伊方現地やその周辺の地域で、原発反対運動をしている方々とも出会うことができた。現地行動は、現地で抗議し、実際に地域住民や電力会社に訴えるという意義もあれば、全国の活動家の人たちと交流できる機会でもある。反原発運動は裾野が広いので、中々個性的な参加者が多いと感じる。今回も、色々と面白い話を聞けたり、刺激になったりした。

伊方原発（左下）を見下ろしながら

私が現地に行く重要性に気付いたのは、多分五年前くらい。それまでも運動はしていたが、離れたところにある原発現地、基地現地に行こうという発想が欠落していたというか、その重要性をよくわかっていなかった。現地へ行くことの大切さは、若狭の原発を考える会の人たちや米軍Ｘバンドレーダー反対京都連絡会の人たちから学んだと思う。一方で、現地に行きながら、普段からしょっちゅう現地に行けている訳でもない私が、外から時たま行くことにどれほどの意味があるのか・・・と考えてしまうこともある。勿論現地行動をやるからには、一人でも多く集まった方が良い。でも、私は年に一度か二度、現地にレジャー感覚で行くようなことはなんだか申し訳ないというか、これで良いんだろうか？と自問してしまう。まあ、だからこそ、普段住んでいる場所でできることを最大限やっていくことが非常に大事だとも思うのだが・・・。とにかく、これからも多くの人と共に運動をつくり、社会を変えていけたらと思う。

（姜旼宙）